保育士コース，乳児保育

# 地域の保育所との連携による「乳児保育」の授業展開

幼児教育講座・深田昭三

## １．分析対象とした授業

本報告では保育士コース科目のうち，1 回生後期に設定している「乳児保育」を取り上げた。

「乳児保育」は，保育士養成コースの必修授業であるが，教員養成系の科目ではない。そのため，基本的には保育士養成コースの学生が受講する授業である。2016 年度は，保育士養成コース 1 回生 12 人と 2 回生 2 人に加え，総合人間形成課程の 2 回生 1 人も受講したので，受講者は計 15 人（男子 1 人，女子 14 人）であった。

## ２．授業の特徴（地域の保育所との連携）

この授業では，松山市内で私立保育所を経営しておられる現役の園長先生を実地指導講師としてお招きしている。本年は 15 回のうちの 7 回の授業でご参加いただき，保育現場での乳児保育の実際や留意点などについてご指導いただいた。また，「乳児の遊び」「おむつ交換」「沐浴」「授乳・食事」については，赤ちゃん人形などを使いながら乳児との対応の演習もご指導をいただいた。乳児保育の各回の授業内容，演習内容，実地指導講師の招聘回は表 1 のとおりである。

今年はとりわけ，実地指導講師のご担当回のうち 1 回は，同氏の勤務先の園に訪問させていただき，受講生を保育の現場で実際の乳児・幼児と関わらせていただいた。

## ３．授業時間外学習

「乳児保育」で深田単独で担当している回では，授業後に，授業で学習した内容と関連のある事項を調べるなどして，その結果をショートレポートとして moodle に書き込むことを授業時間学習課題として求めた。次の授業時間では学生が入力したショートレポートから数件程度を紹介し，コメントをした。

実地指導講師をお招きした回では，講師から課題を出していただき，その課題に基づいて授業展開を行うなどをしていただいた。

**表 1. 「乳児保育」の授業計画**

| 回 | 授業内容 | 演習内容 | |
|---|---|---|---|
| 1 | 乳児・乳児保育の概念 | | |
| 2 | 保育ニーズと乳児保育の考え方の基本 | | |
| 3 | 保育者との信頼関係 | | |
| 4 | 乳児の発達と保育 1（0 歳児） | | |
| 5 | 乳児の発達と保育 2（1 歳児） | | |
| 6 | 乳児の発達と保育 3（2 歳児） | | |
| 7 | 乳児保育の発展の経緯と現状 | | |
| 8 | 乳児の機能発達と遊び | 遊び 1 | * |
| 9 | 象徴機能の発達と遊び | 遊び 2 | * |
| 10 | 排泄習慣の自立 | おむつ交換・沐浴 | * |
| 11 | 睡眠と生活リズム | 授乳・食事 | * |
| 12 | 私立 T 保育園訪問 | | * |
| 13 | 乳児のほ乳と摂食 | | * |
| 14 | 乳児の事故と安全の確保・乳児保育の計画 | | * |
| 15 | 保育所･乳児院の役割と乳児保育の位置づけ | | |

注：*は実地指導講師の招聘回

## ４．授業評価の結果

表 2 に独自項目で行った授業評価アンケートの結果を示した。各項目への評価は「そう思う(4)」～「そう思わない(1)」までの 4 段階評定を求めた。その結果，すべての項目で評定平均が 3.5 を越え，とりわけ「この授業は保育職に就くことに有益だったと思いますか。」など 3 つの質問では 1 人を除き全員が「そう思う(4)」と答えた。

表 2. 授業評価アンケートの結果

| 番号 | 質問項目 | 平均値 *1 |
|---|---|---|
| 1 | あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 | 3.53 |
| 2 | この授業で科せられた課題の量は適切でしたか。 | 3.50 |
| 3 | 授業のテーマ･目的は授業展開の中で明確でしたか。 | 3.80 |
| 4 | 担当教員の話し方や説明の仕方はわかりやすかったですか。 | 3.80 |
| 5 | 授業の中で質問や意見発表の機会は与えられましたか。 | 3.87 |
| 6 | 授業に対する担当教員の熱意･工夫は感じられましたか。 | 3.73 |
| 7 | この授業の内容･レベルはあなたにとって適切でしたか。 | 3.60 |
| 8 | この授業により，自分の考え方がつちかわれたり，得るところがあったりましたか。 | 3.93 |
| 9 | 私語や遅刻などへの適切な処置により，授業に集中する雰囲気は保たれていましたか。 | 3.86 |
| 10 | この授業は保育職に就くことに有益だったと思いますか。 | 3.93 |
| 11 | あなたはこの授業で乳児への理解が進みましたか。 | 3.93 |

*1：回答者数 15 人，1～4 点で評価

授業評価アンケートでは「この授業（保育所訪問を含む）で地域の乳児保育の現状について，どのような理解が促進されましたか。」という自由記述質問も行った。この質問への回答の一部は表 3 に示した。

DP 対応学生認識調査では，1 回生 12 人の評価結果を見た（2 回生は質問項目が違い，人数も少ないので除いた）ところ，DP1～DP4 への評定値は，先の授業評価アンケートほどではないものの 4 点満点中の 3.4～3.6 とかなり高い平均評定値が得られた。

## ５．地域社会を核とした教育と研究のつながりについて

本授業は，地元の保育園長が実地指導講師を務めて下さり，来ていただく回数も全部で 7 回と多い。その間に，現役の園長だからこそ語ることのできる現場に即したお話をしていただいた。自由記述にも現れているように，このことで学生は地域の保育現場に対するリアリティを持つことができている。この意味で地域社会を核とした授業実践として一定の成果を得ていると言えよう。

一方，個人研究では，科研費研究や学部長裁量経費補助による研究で，附属幼稚園を初めとして，県下の幼稚園や保育所をフィールドして継続的に研究を行ってきている。しかし，研究成果は先端的に，また限定的に得るものであり，地域社会を核とした研究が，地域を核とする教育を直接支えているかといえば，必ずしもそうとは言いにくい。

一方で，学部教員として果たす様々な役割や経験（教育実習･保育実習などの実習指導，附属幼稚園の研究支援，地域の保育者・教員との学外の勉強会，全国学会や全国規模の研究会への貢献，国外の研究者との交流）がリアリティのある授業展開のために重要なのではないかと考える。こられの経験はときに研究を含み／ときに研究ではない経験を含み，ときに地域に密着し／ときに全国・世界レベルのものである。これらが総体として保育者を養成するための授業に豊かさをもたらしていると言えるのではないだろうか。

表 3. 地域の乳児保育への理解（自由記述）

**学生 A さん**

深田先生の講義で乳児についての知識を習得した後に，実際に現場で働かれている先生のお話を聞くことで，より理解が深まり，現実の保育や保育の現場をイメージすることができました。保育士の仕事は激務にも関わらず給料が安いという話をよく耳にするけれど，書類を簡素化したり，給料が上げられたりなど，少しずつ改善されていることを知り，安心しました。また，朝，汚れたオムツを変えてもらえないまま保育園に登園してきたり，生活リズムが乱れたまま登園してきたりする子どもがいるという話を聞き，自分は恵まれていたのだと実感すると同時に，そのような大人やそのような大人を作ってしまう社会に怒りを感じました。もっと社会全体，地域全体で子どもを守り，育てていこうとする姿勢が必要だと思います。

**学生 B さん**

地域の保育所の園長先生が授業をして下さることがあり，オムツがえの方法や，沐浴の方法など，より具体的なことを学ぶことができた。また，実際に保育所に訪問したことで，子どもたちと関われただけでなく，ニュースなどでよく問題になっている保育所の立地などについても学ぶことができた。保育所を作る場所がない，子どもの声がうるさい，子どもがのびのび自由に遊ぶことができないといった問題は，東京などの都会で起こっている問題だと思っていたけれど，松山でも住宅街の狭いところに保育所があることがわかった。また，狭い中でも，子どもたちは狭くてスペースがあまりないからこそ，より工夫して遊んだり，先生方も工夫していて，マイナスなことばかりではないことが分かった。